

るに、屈曲の山路にて人足も安からざる險岨の山坂を往來するに難しとも見へず、また夫よりはるかに過て、濱邊に出て通りけるに、渚に飼馬と見へて、六七疋遊び見へたり、馬子予にいひけるは、暫く馬を駐て待居給はれと云て渚端に行く、予手綱を取て馬をとめて待居しに、彼馬子渚端の馬を撫廻し、よく見て戻る、予不審におもひ、其故をとふ、ときに馬子云、某の馬二十日計以前に、野放しに仕置たるが未見へず、よつて渚端の馬某が馬に能似たるゆへ、篤と捕へ見れば、某が馬にあらずといふ、予失ひたるかと問へば、馬子云、もし熊にとられたるか、生てだに居ば終にはいつか尋ねあたる也といへり、

〔明良洪範〕八神君、藤ノ森ノ御屋敷ノ厩破損シケル、加々爪隼人新造セント申上ル、上意ニ雨漏ラバ其所計リ防ギ置、壁崩レナバ其所計土付ヨ、破レヌ所ハ其儘置ベシト也、隼人又申上ルハ、今上方ノ諸侯夏ハ蚊帳ヲ釣リ、冬ハ布團ヲ著セテ馬ヲ愛セラル、御家ノ厩ハ戸口ニ藁筵ヲ下ゲ候、餘リ籠末也ト云ケレバ、武士ノ馬ヲ畜ハ用立所專一也、外見ヲ飾ルニ及ズ、予ガ藁筵ヲ掛テ畜フ馬ト、他家ノ蚊帳ヲ釣テ畜フ馬ト、何レカ勝ルト思フヤ、險阻ヲ乘リ、川ヲ渡リ、堀ヲ越エ、極寒極暑ニモ疲レザルヲ能シトス、夫ハ常々畜様ニ有事也、馬ヲ畜フ事、上方風ニ習フ事ナカレト宣ヒシト也、

〔明良洪範〕十二信州ノ人曰、常ニ米ノ藁ヲ喰フ馬ハ、冬野ニ放チ置キテ、脊ニ霜カ、レバ忽チ消ル常ニ粟ノ藁ヲ喰フ馬ハ、脊ニカ、ル霜暫時消ズト也、信州ハ至テ寒國ナレバ、カヤウナル事有ヌベシ、米ノ徳アル事、今更イフベクモアラズ、

〔倭名類聚抄〕十一牛馬病、脊瘡、陶隱居曰、鹽有九種、柔鹽、療馬脊瘡、俗云多胡

腹腫、伯樂曰、馬腹腫、俗云多知波禮、無病直立腹下腫是也、遣人騎行、則汗出即差、

脚病、伯樂曰、脚病、俗云阿奈岐、馬有此病、則欬嗽、衣毛焦折、前足重不能行、